

第4次総合計画の 全般+政策(16)	第1回市民懇談会		第2回市民懇談会	「第4次総合計画総括レポート」へのコメント(案)	備考	
	際立った特色	課題	(かっこ内の丸数字は、グループの番号)	★追加や修正等のご意見は、別紙(資料6)にて事務局までご提出ください ⇒ 締め切り=1月26日(月曜日)午後5時		
1. 全般	<ul style="list-style-type: none"> 八尾が好き人が多い 人とのつながりが豊か → 八尾から離れられなくなる 元気な人が多い 「八尾が大好き」と言える人が多い 八尾は元気のあるまち 人口が20~30万人で小回りがきく。程よい大きさ 住みやすい バランスがいい(自然、産業、人) お金がなくても楽しめる 河内の中心 特別に何かがあるというわけではない 大都市に隣接 田舎だが便利 八尾は「ええなあ」といわれる 	<ul style="list-style-type: none"> 休日にすごしたいと思える場所が少ない 八尾の良いところを知らない人がおられる 	<ul style="list-style-type: none"> 市民パワーが既に色々と発揮されている。親しみやすいまちであることの全国発信が必要。広報の仕組みづくりを提案したい。(①) 八尾の魅力を次の世代に伝えていくことが大切。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(1-1)「八尾が大好き」と言える人、元気な人が多い。人のつながりが豊かで、八尾から離れられなくなる。 ○(1-2)八尾は人口が20~30万人の間で小回りがきく程よい大きさである。自然や産業のバランスがよく、大都市にも隣接しているので便利で住みやすい。 ○(1-3)休日にすごしたいと思える場所が少ない。 ○(1-4)八尾の良いところを知らない人がおられる。市民パワーが活発であること、親しみやすいまちであることなど、八尾の良さを全国にPRしていくことが必要である。 ○(1-5)八尾の魅力を次の世代に伝えていくことが大切である。 	八尾の魅力	
		<ul style="list-style-type: none"> 子ども、高齢者の目線・意見を取り入れる 八尾全体の統一デザインがない(シンボルに集約しては) 	<ul style="list-style-type: none"> こんな八尾市にしたいというビジョンが市民と共有できていない。常に到達点(ポジション)をふりかえることができる総合計画にして欲しい。(①) 市民の意見を聞くばかりでなく、地域を熟知している行政自身が方向性を打ち出すことが必要。地域経営・市民参加だけでは古く、それを踏まえた行政の主導性、リード力が必要。(①) 様々な施策の実施を、市民の生活実感の改善に繋げていくことが大切。行政の自己評価と市民の評価に差があるものについての分析が必要。(②) 現在の課題を一覧にし、その課題を市民が評価する仕組みをつくる必要がある。(②) まちづくりについて冊子や地図を作成しているが、市民全員に対して情報を共有できていない。(②) 総合計画と財政の関係はどうあるべきかについて今後議論を深めていくことが必要。(①) 行政と民間が協力して八尾独自の人材育成に力を入れる必要がある。(①) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(1-6)八尾の将来ビジョンが市民と共有できていない。常に到達点(ポジション)をふりかえることができる総合計画とすることが必要である。また、総合計画と財政の関係はどうあるべきかについて今後議論を深めていくことが必要である。 ○(1-7)地域を熟知している行政が方向性を打ち出すことも必要。地域経営・市民参加を踏まえた行政の主導性、リード力が必要である。 ○(1-8)子どもや高齢者の目線・意見を取り入れたまちづくりを進めていくことが必要である。 ○(1-9)様々な施策を市民の生活実感の改善に繋げていくことが大切。行政の自己評価と市民の評価に差があるものについての分析が必要。課題を一覧にし、その課題を市民が評価する仕組みをつくる必要がある。 ○(1-10)行政と民間が協力して八尾独自の人材育成に力を入れる必要がある。 	まちづくりの 進め方	
地域経営システム分野	2. 市民参画の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> 行政とのパイプが作りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 市民がたくさんの人とつながる仕組みづくり 市民に一体感がない(小さい地域がばらばらに動く。まとめて動かない) 地域で支えあう 行政、市民がどう役割をわかちあうか 	<ul style="list-style-type: none"> 団体が上手くつながっていない。コンダクターとなる組織が必要。 行政だけでは限界がある。市民参加による行政と市民の協働が必要。行政は市民の声に耳を傾け、市政に反映させるべき。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(2-1)市民に一体感がない(小さい地域がばらばらに動く。まとめて動かない。団体が上手くつながっていない)。市民がたくさんの人とつながる仕組みづくりや、コンダクターとなる組織が必要である。 ○(2-2)行政だけでの活動には限界がある。地域での支えあいが必要であり、住民と行政との役割のわかちあい(協働)が必要である。 ○(2-3)他の大きな都市に比べると、行政と市民との距離は比較的近く、人間関係も作りやすい。 ○(2-4)行政は市民の声に耳を傾け、市政に反映させることが必要である。 	協働
		<ul style="list-style-type: none"> 「コミセン毎に地域の好きどころマップを作成した」 66ヶ村(明治時代の市域) 	<ul style="list-style-type: none"> 「好きどころマップ」 →地域の良さを活かしたまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会活動の充実(広報、防犯、防災、環境など)が必要。NPOや小学校区単位での様々な活動とも連携できると良い。若い世代が自治会離れをしていることから、若い人の参加の促進が必要。 ○ラウンドテーブルは先見性のある取り組みであるが、実践が伴わなかった。ようやく時代が追いついてきた。最初は行政からの働きかけが必要であったのではないかと。 ○市職員も住民として地元の地域活動に参加してはどうか。いっしょに取り組むことで自治を担う人材が地域で育つと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○(2-5)コミュニティセンター毎に地域の好きどころマップを作成したことがある。地域の良さを活かしたまちづくりを進めていくことが必要である。 ○(2-6)自治会活動の充実(広報、防犯、防災、環境など)が必要。NPOや小学校区単位での様々な活動とも連携できると良い。若い世代が自治会離れをしていることから、若い人を役員とするなど、若者の参加促進が必要である。 ○(2-7)ラウンドテーブルは先見性のある取り組みであるが、実践が伴わなかった。ようやく時代が追いついてきた。最初は行政からの働きかけが必要であったのではないかと。 ○(2-8)市職員も住民として地元の地域活動に参加してはどうか。一緒に取り組むことで自治を担う人材が地域で育つと思われる。 	地域活動

第4次総合計画の 全般+政策(16)	第1回市民懇談会		第2回市民懇談会	「第4次総合計画総括レポート」へのコメント(案) ★追加や修正等のご意見は、別紙(資料6)にて事務局までご提出ください ⇒ 締め切り=1月26日(月曜日)午後5時	備考	
	際立った特色	課題	(かっこ内の丸数字は、グループの番号)			
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの力がつよい 職住近接 → 趣味がしやすい 		<ul style="list-style-type: none"> 中間支援組織(市民活動支援ネットワークセンター「つどい」)の活動のてこ入れが必要。(①) 企業が市民活動に参加したことも過去10年間の成果では、企業との協力も必要。(①) 市制60周年での様々な取り組みをきっかけにボランティア活動が活発となっている。(②) 市からの助成金からはボランティア参加者にお茶1本を配ることができない。何とかならないか。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(2-9)市制60周年での様々な取り組みもあって、ボランティア活動が活発となっている。また、企業のまちづくりへの参加が進んだことも成果であろう。 ○(2-10)中間支援組織(市民活動支援ネットワークセンター「つどい」)の活動のてこ入れが必要である。 ○(2-11)ボランティア活動を活性化するために助成制度の見直しが必要ではないか。 	市民活動	
			<ul style="list-style-type: none"> 河内音頭まつりが市民のまつりとならず特定の人だけで盛り上がりつつある。全国発信するのであれば学校でも教えてはどうか。文化や国際交流にもつなげてはどうか。(①) 河内音頭まつりは大勢のボランティアが支えている。全員がボランティアになれば開催費用の節約にもなる。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(2-12)河内音頭まつりが、特定の人だけで盛り上がりつつある印象がある。河内音頭を全国発信するのであれば学校で教えてはどうか。また、文化や国際交流にもつなげてはどうか。また、大勢のボランティアが支えるまつりであるので、全員がボランティアになれば開催費用の節約になる。 	河内音頭	
3. まちづくりの共通意識の向上			<ul style="list-style-type: none"> エレベーター設置などバリアフリーが進んだ。しかし、整備方法がばらばらであり、統一感がない。また、整備したことのPRが必要。(①) 公共施設は誰もが使える施設をめざすべき。バリアフリーを含めたユニバーサルデザイン化を進めるべき。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(3-1)エレベーター設置などのバリアフリー化が進んでいる。 ○(3-2)整備したことのPRを強化するとともに、誰もが使える公共施設をめざして、バリアフリーを含めたユニバーサルデザイン化を進めていく必要がある。 	ユニバーサルデザイン	
	外国人が“野遊祭”で楽しむ	外国人が住みやすいまちに		<ul style="list-style-type: none"> ○(3-3)“野遊祭”には外国人市民も多数参加し、楽しんでいる。 ○(3-4)外国人市民が暮らしやすいまちづくりを進めていく必要がある。 	国際平和	
4. 効率的創造的な行政運営		<ul style="list-style-type: none"> 財源がなくても取り組めることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域担当職員を配置するのであれば、地域事情に詳しい職員の方が良いのではないか。(①) 各施策についてPR方法の検討が必要。市のホームページがわかりにくい。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(4-1)財源がなくても取り組めることがあるのではないか。 ○(4-2)地域担当職員を配置するのであれば、地域事情に詳しい職員の方が良い。 ○(4-3)各施策についてPR方法の見直しが必要。市のホームページがわかりにくい。 		
健康福祉分野	5. 総合的な地域コミュニティケアの充実	<ul style="list-style-type: none"> 人がきさく、助け合う → 住みやすい 人情があるまち 地域福祉の見守り活動では人が何よりも資源 あたたかいまち 支えあい 	<ul style="list-style-type: none"> できる人をもっと強く。そうでない人をどうするか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域福祉活動における行政の関与、取り組みが見えてこない。(②) シルバー人材センターのPRが必要。また、施設が手狭である。就労促進のための支援が必要。(②) 在宅介護についての市民の評価、問題点がしっかりと把握できていないのでは。(②) 地域福祉推進基金の運営方法の見直しが必要。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(5-1)八尾は、住民が気さくで、人情・助け合い・支え合いがあって、暮らしやすいまち、あたたかいまちである。 ○(5-2)弱者をきちんと支えていく必要がある。 ○(5-3)地域福祉活動における行政の役割がわかりにくい。また、地域福祉推進基金の運営の見直しが必要である。 ○(5-4)在宅介護については、市民の評価、問題点をしっかりと把握することが必要である。 ○(5-5)シルバー人材センターのPRが必要である。施設が手狭となっている。 	福祉
		<ul style="list-style-type: none"> 伸び伸び暮らせた、遊べた のびのびと子どものときに遊べた 子どもが育てやすかった(周りとの関わり) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本一子どもを育てやすいまち(待機児童なし、医療費ゼロなど) ファミリーサポートセンターが設置されたが、まだ地域に根ざしているとはいえない。つどいの広場や市民団体との連携などが望まれる。(④) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(5-6)かつては、周りの住民の支えもあり、子どもたちを育てやすいまちであった。子どもたちものびのびと遊ぶことができた。 ○(5-7)これからも子どもたちが元気に過ごせるまちにしたい。そのためには、子どもたちが放課後に遊べるところ、活躍できる場所が必要である。 ○(5-8)日本一子どもを育てやすいまち(待機児童なし、医療費ゼロなど)を目標に掲げるなど、子どもを「もつと」育てやすいまちにしたい。人口増加にもつながるのではないか。 ○(5-9)ファミリーサポートセンターなどの施策のPRや、事業・制度間や市民活動等との連携強化が望まれる。 	子ども・子育て	
				<ul style="list-style-type: none"> 医療体制の充実が必要。(②) 救急医療情報の提供の充実が必要。(②) 救急医療(1次・2次・3次)の役割分担の課題や、診療科不足の問題など、救急医療の課題を明確化すべき。患者のたらい回しを防ぐための具体的な対策を講じる必要がある。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(5-10)救急医療についての情報提供の充実が必要である。 ○(5-11)救急医療(1次・2次・3次)の役割分担の課題や、診療科不足の問題など、救急医療の課題を明確化すべき。患者のたらい回しを防ぐための具体的な対策を講じる必要がある。 	医療

第4次総合計画の 全般+政策(16)	第1回市民懇談会		第2回市民懇談会		「第4次総合計画総括レポート」へのコメント(案) ★追加や修正等のご意見は、別紙(資料6)にて事務局までご 提出ください ⇒ 締め切り=1月26日(月曜日)午後5時	備考
	際立った特色	課題	(かっこ内の丸数字は、グループの番号)			
教育文化分野	6. 生涯を通じて 学び楽しむ環境づく り	・歴史、史跡 ・文化、河内音頭	・郷土芸能を守っていきたい →高齢者の生きがいにもなる ・いつも河内音頭が流れているまち に(定席を) ・河内音頭を継ぐ人が15年たつとい なくなる ・地域ごとにより、河内音頭を	・伝統文化の保存・継承に加えて、文化を担う人材の育成が必要。 (②)	○(6-1)河内音頭がいつもまちに流れているようなまちにしたい。 ○(6-2)河内音頭などの郷土芸能を守っていくことが必要である。 伝統芸能の保存・継承活動は、高齢者の生きがいづくりともなる。	伝統文化
	7. 子どもが健やか かに伸びていく教育の充 実		・学校や先生の元気がない →子どもが元気でないと！	・学校、地域、家庭のネットワークが少しずつできているが不十分。 学校が中心となったネットワークを考えていく必要がある。(④) ・市民や保護者の側から先生の顔や個性、特色が見えにくくなっ ている。先生が特色ある活動をしにくくなってきているのでは。(④) ・「人権のまち・八尾」として、「生きる力」とは何かを学校を中心に調 査・検討してほしい。学力だけでなく、仲間づくりや交流等も必要。 そして、「生きる力」の向上のために地域で何ができるのかを考える べき。(④) ・子どもの役割や責任を明確にし、主体的にものごとに組み組める子 どもを育てていくことが必要。(④) ・“できる学校”と“できない学校”に分けて方針を検討するような単 純化は危険。子どもを中心に何が原因で問題が生じているかをしっ かりと分析し、親や地域の参画を得て課題への取り組みを進めてい くことが必要。(④) ・“モンスターペアレント”が話題となり、保護者が学校に意見を言 いにくい環境ができてしまった。(④) ・ゲストティーチャー(社会人教師)に関する議論が始まったが十分 ではない。(④) ・教育サポートセンターの設置は評価するが、活動内容についての認 識が広がっていない。現場教員のニーズを調査し、教員を支える体 制、研修制度をサポートセンターが担うべき。(④) ・教育サポートセンターについての広報が不十分。コーディネ ーターなど必要に応じた人材の育成・確保が必要。(④) ・教育サポートセンターには、子どもが本当に必要としていることを しっかり把握することが望まれる。(④)	○(7-1)学校や先生の元気がないと、子どもたちも元気になる ない。 ○(7-2)“できる学校”と“できない学校”に分けて方針を検討するよ うな単純化は危険。子どもを中心に何が原因で問題が生じているか をしっかりと分析し、親や地域の参画を得て課題への取り組みを進め ていくことが必要である。 ○(7-3)市民や保護者の側から先生の顔や個性、特色が見えにく なっている。また、“モンスターペアレント”が話題となり、保護者が学 校に意見を言いにくい環境ができていく。 ○(7-4)学校を中心として、学校・家庭・地域のネットワークのさら なる充実を進めていくことが必要である。 ○(7-5)「人権のまち・八尾」として、「生きる力」とは何かにつ いて学校を中心として調査・検討が必要である。学力だけでなく、仲間づ くりや交流等も必要である。また、主体的にものごとに組み組める子 どもを育てていくことが必要である。そして、「生きる力」の向上のため に地域で何ができるのかを考えるべきである。 ○(7-6)ゲストティーチャー(社会人教師)に関する議論が始まった が十分ではない。 ○(7-7)教育サポートセンターが設置されたことは評価できる。子 どもたちや、現場の教員のニーズをしっかりと把握し、教員を支える体 制づくりや教員の研修、コーディネーターなどの人材育成を進めてい くことが求められる。	学校・教育
産業経済分野	8. 産業振興方向 の検討	・農業、商業、工業のバランス	・資源の再発見で産業起し →利益の源泉→雇用→市民活 動 ・行政的に元気とは？ ・事業所が減っている →税収が落ちる ・中心の産業は何？	・産業は市の活力の源であり、産業全体の活性化が重要。振興計 画や仕組みがないため中小企業の先行きが不透明。(③)	○(8-1)八尾市には、製造業(ものづくり)、商業、農業などの様 々な産業がバランスよく存在している。 ○(8-2)事業所が減少傾向にあるが、このままでは税収が落ち込 んでしまう。 ○(8-3)産業は八尾の活力の源であり、産業全体の活性化が重要 である。産業振興のための計画策定や仕組みづくりが必要である。 ○(8-4)地域資源の再発見により産業を起し、その利益により雇 用を維持する。それが市民活動の活発化にもつながる。たとえば、産 業集積を活かして、地元で消費するものを生産・供給することが考 えられる。	産業振興
	9. 産業集積機能 の強化		・産業集積が壊れかけている →地域で消費するものをつくっ てはどうか ・産業の集積地で空き家が増えて いるのは大変。集積が強みであれば 大変な状況ではないか。 ・住民に商工業の役割を伝えてい くことが必要	・「ものづくりのまち」として産業集積が全国的に有名であるが、その 仕組みが崩壊しつつある。(③) ・製造業のまちであるが、そのイメージがない。(③) ・工場の移転・廃業によりできた跡地に住宅が建つと、周辺の工場 が迷惑施設となったり、事業拡張がしにくくなる。土地利用について 今までのよきを守っていくため、住宅の建設抑制などの仕組みづ くりや風土づくりが必要。(③) ・産業集積を維持するために、企業が流出しない魅力づくり(例： ネットワークづくり、道路の拡幅など)が必要。(③)	○(9-1)「ものづくりのまち」として全国的に有名であるが、産業集積 を成り立たせている仕組みが崩壊しつつある。 ○(9-2)産業集積を維持するために、企業が流出しないような対策 (例：住工混在の抑制、ネットワークづくり、道路の拡幅など)が必要 である。 ○(9-3)商工業が果たしている役割について、市民に理解を求めて いくことも必要である。	産業集積
	10. 地域に根ざ した産業の振興			・空き店舗が増えているので、そうした店舗を上手く活用していくこ とが必要。(③) ・大型店の出店により商店街の活気がなくなると、大型店が撤退した ときに、非常に不便になる。小さい店が集まって賑わう商店街となれ ばよいのだが。(③)	○(10-1)空き店舗が増えてきているので、そうした店舗を上手く活 用していくことが必要である。 ○(10-2)大型店に依存しすぎると、大型店が撤退した時のダメ ージが大きくなる。小さい店が集まって賑わう商店街となればよい。	商業

第4次総合計画の 全般+政策(16)		第1回市民懇談会		第2回市民懇談会 (かっこ内の丸数字は、グループの番号)	「第4次総合計画総括レポート」へのコメント(案) ★追加や修正等のご意見は、別紙(資料6)にて事務局までご 提出ください ⇒ 締め切り=1月26日(月曜日)午後5時	備考
		際立った特色	課題			
				<ul style="list-style-type: none"> ・農地が減ってきており、地産地消などの支援が必要。直売所はあるが市民に知られていない。(③) ・生産者が減り、特産物として残っているのは若ごぼうと枝豆である。(③) ・消費者の側にも、地元の農産物を食べるという意識改革が必要。(③) ・生産者も、所有地だからといって遊休地にするのではなく、有効活用していくことが求められる。(③) ・工業の職人に対する表彰と同様の表彰制度が農家に対しても必要では。(③) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(10-3)農地が減っている。生産者不足により、特産物として残っているのは、若ごぼうと枝豆ぐらいである。 ○(10-4)消費者の意識改革により、地産地消を進めていくことが必要である。直売所もあるが市民に知られていない。 ○(10-5)生産者には貴重な農地を有効活用していくことが求められる。頑張っている農家に対しては、ものづくりの職人と同様に表彰してはどうか。 	農業
			<ul style="list-style-type: none"> ・日本は技術と文化で生活していく(資源がない) ・外国人観光客を呼び込む(民俗芸能を見せよう) ・観光を大事にしましょう(担当部署、観光協会もない) ・楽しいまちをつくる ・地域資源を掘り起こそう →まちづくり、産業づくりにつなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光に取り組むべき。現行の総計には観光の項目がない。市役所には担当組織がない。行政における観光の位置づけをしっかりとすることが必要。観光は商業活性化のほか、住民がわがまちを見直す効果にもつながる。(③) ・八尾は歴史、自然、ものづくりなど観光資源が豊富。古墳、埋蔵物などの歴史的資源の活用のほか、インダストリアルツーリズムなどの工場見学、農業見学などにより、他の産業との関係も強くなる。(③) ・強力な観光資源がなければ、観光資源を育てていけばよい。PRが重要。(③) ・観光ボランティア協会などの体制整備が必要。(③) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(10-6)八尾は歴史や自然、ものづくりなど観光資源が豊富である。総合計画や行政組織においてきちんと位置づけた上で、観光に取り組むべきである。観光は商業活性化のほか、住民がわがまちを見直す効果にもつながる。 ○(10-7)古墳、埋蔵物などの歴史的資源の活用のほか、インダストリアルツーリズムなどの工場見学、農業見学などにより、他の産業との関係を強めて取り組みを進めることが必要である。 ○(10-8)観光ボランティア協会などの体制整備とともに、情報発信(PR)が重要である。 	観光
			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが八尾で働けるように ・「元氣」→ 働く場所、従業員を増やす ・外国人、障害者の職場 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政自身が障害者の法定雇用率を達成していない。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(10-9)働く場所や従業員を増やすことが、まちの元氣につながる。 ○(10-10)子どもたちが八尾市内で働けるようなまちづくりを進めたい。 ○(10-11)障害者や外国人市民の雇用の場も重要である。行政は率先して、障害者の法定雇用率を達成すべきである。 	就業・雇用
生活環境分野	11. 循環型社会の形成と生活環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・20~30万人はエコでも最適 ・ものづくりのまち(省エネしやすい) 		<ul style="list-style-type: none"> ・行政がリーダーシップをとって環境に関わるビジョン(水やごみの削減だけでなく、太陽光発電などを含めた)を打ち出すべき。(①) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(11-1)人口20~30万人の都市は、環境配慮の観点からも最適な人口規模であり、そうした特色を生かした総合的な環境配慮のビジョンを打ち出していくことが必要である。 ○(11-2)環境配慮を進めていくため、ものづくりのまちである特色や蓄積を活かし、様々な環境配慮技術が活用できるとよい。 	環境
	12. 安全安心なまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が少ない ・大阪府中部広域防災拠点がある ・災害時に助け合い ・人のために動く人、困っている人を助けあう風土 ・人のつながりで守っていく(防災) ・防災と地域福祉のつながりが大事になる → 頼もしく感じる ・犯罪が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・生駒山の活断層 →ライフラインの確保 ・まずは安心安全なまち ・公園の見通しが悪い(木がかげになる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひったくりが多いので、年末だけでなく通年で夜回りをしていただけると良い。(②) ・通学路の安全確保について、民間だけでなく、行政も協力してほしい。(②) 	<ul style="list-style-type: none"> ○(12-1)困っている人を助け合う風土があるのが八尾の特色である。 ○(12-2)これまでは、比較的自然災害が少なかったが、生駒山に活断層があることから、地域福祉と連携しながら、人のつながりによる防災対策を進めていくことが必要である。 ○(12-3)通学路の安全確保のため、民間だけでなく行政など公的機関の協力が求められる。 ○(12-4)ひったくりが多いので、通年で夜回りができるとよい。 	安全・安心
	13. ライフラインの充実と水循環の促進				<ul style="list-style-type: none"> ○(13-1)ゲリラ豪雨対策やライフラインの防災対策を進めていくことが必要である。 	防災
都市基盤分野	14. 計画的な土地利用と都市景観の誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設、公園などが一通り整備された。 ・玉串川の桜 	<ul style="list-style-type: none"> ・八尾のまちにあった「かたち」「やり方」を柔軟に考えたい ・駅周辺整備をもっと(近鉄河内山本駅周辺) 		<ul style="list-style-type: none"> ○(14-1)公共施設や公園などの都市基盤施設は一通り整備されている。 ○(14-2)玉串川の桜並木は八尾の魅力である。 ○(14-3)駅周辺整備にあたっては、八尾のまちにあった「かたち」「やり方」を柔軟に考えていくことが必要である。 	土地利用・景観
	15. 自然環境保全と緑の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・自然(山、川、池) ・大阪市内から自然を求めて遊びに来る 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑が減った。市民一人ひとりが取り組めることでは。 		<ul style="list-style-type: none"> ○(15-1)山や川、池などの自然に恵まれていることは八尾の魅力である。 ○(15-2)大都市の近接した資源として、広域的な財産ともいえる。 ○(15-3)まちなかの緑が減ってきていることから、市民一人ひとりが何か協力していくことが必要である。 	自然

第4次総合計画の 全般+政策(16)	第1回市民懇談会		第2回市民懇談会 (かっこ内の丸数字は、グループの番号)	「第4次総合計画総括レポート」へのコメント(案) ★追加や修正等のご意見は、別紙(資料6)にて事務局までご 提出ください ⇒ 締め切り=1月26日(月曜日)午後5時	備考
	際立った特色	課題			
16. 総合交通体系の形成と道路の整備推進	<ul style="list-style-type: none"> ・交通が便利(八尾空港、新大阪駅につながる) ・ケーブルカーがある ・自転車で通りやすい道ができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコカーで移動している。ものづくりのまち。 →持続可能なまちをめざしやすい ・アスファルト舗装が増えた ・駅のバリアフリー化の検討に参加(JR八尾駅) ・南北の交通網がない 		<ul style="list-style-type: none"> ○(16-1)将来的に、久宝寺駅と新大阪駅がつながるなど、広域的な交通体系を含め、大都市アクセスは良好である。 ○(16-2)全ての鉄道路線が大阪と結ばれており、市内での南北の移動が不便である。 ○(16-3)市域はコンパクトであり、自転車やエコカーの活用などにより、環境配慮を進めていくことが考えられる。 	交通
17. まちづくりと連携した良好な住環境の創造				<ul style="list-style-type: none"> ○(17-1)具体的な住宅政策が見えない。 ○(17-2)市営住宅の公正、適正な運営が求められる。 	住宅